

コラム

編集・発行：金浦区自治会
発行日：2022. 11. 1

金浦自然との共生シリーズ No.19 「身近で唯一の肉食のチョウ、ゴイシシジミ」

文責：波多野 哲哉



ハネの裏に黒い基石（ごいし）をならべたような模様がある小さなチョウ、ゴイシシジミがいます。10年ほど前に金浦地内で出会ったときはびっくりしました。かなり珍しいチョウです。（兵庫県レッドリスト要注目種）

このチョウの幼虫は、ササやタケなどにつくタケノアブラムシ類を食べて大きくなります。そして、まさかなのですが、親のチョウになっても、このタケノアブラムシを食べるのです！・・・と言っても、むしゃむしゃ食べる口は持っていません。チョウはみなストロー状の口です。このチョウがアブラムシをチョンチョンと突つくとアブラムシが嫌がって？お尻から「おしっこ」を水滴状に出します。それをストローで吸うということで命をつないでいます。このおしっこの水滴は「甘露（かんろ）」と呼ばれ、甘いのだそうです。実はこの甘露、昆虫界では大の人気食料で、アリもこれが欲しいために、アブラムシを襲ってくるテントウムシの幼虫を撃退し、そのご褒美として甘露をもらうらしいのです。小さなチョウが生き抜くために、完全肉食（動物性たんぱく質に依存する種）になったのには、さまざまなストーリーがあったことでしょう。当の本人たちも、もうそのいきさつはわからないのかもしれないかもしれませんが…。